

# 文学部生の リアルな学生生活③

## 学外活動応援奨学金 活動報告

文学部人文社会学科

ドイツ語文学文化専攻四年

高井 綾香

(静岡県立静岡高校)



### ドイツで被災都市復興を調査

文学部には、学外活動応援奨学金という給付奨学金の制度があります。フィールドワークや語学研修、ボランティアなど、学生が学外で行う活動を自分で計画し、審査に合格するとその計画に準拠した奨学金をいただけるというものです。私はこの学外活動応援奨学金をいただき、卒業論文執筆のため、二〇一五年八月一九日から九月二日の一四日間ドイツへ調査に行ってきました。

私の研究テーマは「ドイツの第二次大戦時の被災都市における復興」です。第二次大戦で、ドイツでは連合軍の攻撃により多くの都市が被災し、重要な建築物が破壊されました。しかし戦後復興され、今日では戦前からそのままあり続けているかのような歴史的建築物

や、美しい街並みを見ることができ、美しい街並みを見ることで、さまざまなコンセプトに

基づき復興したのか、再建された建築物や街並みは人々にどのような影響を与えてきたのか、また都市ごとに違いはあるのか。これらの疑問を卒業論文で明らかにすることにしました。私はドイツ語で卒業論文を書く予定であり、さらにこのテーマに関して日本で手に入ることでできる文献が少なかったために、実際にドイツへ行って調査し資料を収集したいと考えました。対象として選んだのは、ドレスデン、ハノーファー、ニュルンベルクの三都市です。第二次大戦で街の大部分が被災した都市は多数ありますが、この三都市は戦災時の被災規模が大きかったこと、歴史的に重要な建築物が現在でも保存されていること、現在の人口規模からして中規模都市に分

類される、という三点において共通しています。一方、この三都市は地域的には分散しており(ドレスデンは旧東ドイツ、ハノーファーとニュルンベルクは旧西ドイツ地域)、さらに復興後の街並みが大きく異なっているという違いもあります。このような理由からこの三都市での調査を行いました。

### 専門家にインタビューし成果

実際の活動としては、①インタビュー、②資料収集、③実地調査の三つの観点で行いました。研究テーマに関して専門家の話を聞く必要があると考え、訪問前には各都市の都市計画課・文化財保護課・市立博物館・古文書館のHPから担当者の方にメールしコンタクトを取りました。調査期間がちょうど多くのところ、夏休みの期間と重なってしまっていたため、当初は返事がなかったり断られてしまったりしたところもありましたが、最終的に計六カ所、一〇人以上の方のインタビューを行うことができました。インタビューでは、了承していただいた後に送付

してあった質問のリストを基に答えとなる情報や文献をどの方も用意してくださっていたため、当初は書店や図書館のみで手に入れようと思っていた資料も、インタビュウを行ったことで貴重かつ有益なものを多く手に入れることができました。また一緒に博物館を回って解説してくださったり、関係ある資料を用意してくれたり、一人で街にいたのでは知ることができなかつた情報を得ることができました。専門家であり一市民である方々と知り合えてお話を聞けたことは、本当に貴重な経験となりました。実地調査という観点では、

街と建築物の関係、歴代の地図の比較なども研究の題材の一つとして扱おうと考えていたため、地図と「実際の建物」をよく理解するために「地図を見てその場所の様子を頭に浮かぶ、その場所に行ったら地図のどこにいるのかが分かる」という状態になるまで、朝から晩までできる限りの時間を使って街を歩き調査をしました。

各都市とも短い期間での調査でしたが、帰国してからも、資料や地図がはつきりと頭の中に浮かび、調査に行くまでは漠然としていた都市像が鮮明になりました。インタビューや手に入れることのでき

た都市像を求める人々の思いの強さが復興する際の都市像に大きく影響していること、また旧東西ドイツにおける違いが大きいことや、市民の影響が建築物・街並みの復興に表れているということが明らかにになりました。

#### 四年間の学びを存分に生かす

今回の調査は、計画の時点で想定していたよりもはるかに充実した日々を過ごすことができ、必要な情報も十分に得ることができた、実りあるものとなりました。実際に訪れてみて、各都市の街並みの違いを自分の目で確認し、それぞれの都市の特有な点を新たに多く発見することができました。ドイツ人の方にコンタクトを取ること

から始め、インタビュウもドイツ語で行い街を一人で調査した今回の活動は、短期間ということもあり多くの困難もありましたが、四年間の独文での学びを存分に生かすことができた大変有意義なものであったと感じています。そして集大成としての卒業論文も、この調査を生かして書き上げることが

ハノーファー市街地にある現代的なモニュメント



できました。卒業後は大学院に進学し、引き続きテーマの研究を深めていきます。

学外活動応援奨学金をいただいていた今回の活動は、調査結果が研究のためになっただけでなく、自分で一から計画を練って準備しそれを実現させることができたといい点で、大きな自信となりました。ぜひ多くの文学部生に、この奨学金制度に挑戦してもらいたいと思います。



ドレスデン復興のシンボル、聖母教会